

高校生、認知症サポーターに

京滋で病院や介護施設を運営する洛和会ヘルスケアシステム（京都市山科区）が18日、宇治市広野町の立命館宇治高で、2年生約70人を対象に認知症サポーター養成講座を開いた。生徒たちは、認知症の知識や患者への接し方などを学んだ。

同社が両府県の学校や地域団体向けに進める活動の一環。総合的な学習の時間を使い、OBでもある社員の塩見早人さん（38）が話した。塩見さんは認知症の分類や症状の特性につ

立命館宇治高で養成講座 接し方など学ぶ



いて説明した。患者との接し方では「ゆっくり話す」「（相手の）言葉だけでなく、表情を確かめる」などの注意点を話した。

生徒たちは、認知症の人役の社員に声をかける体験をしたほか、高齢者の体の状態を体感するため、脚に重りを付けたり、視界が狭くなるゴーグルを着けたりもした。

（中西英明）

認知症の人役の社員（右端）に声を掛ける生徒
宇治市広野町・立命館宇治高